

大山崎の「洛和ヴィラ天王山」スペース利用増

大山崎町大山崎の介護老人福祉施設「洛和ヴィラ天王山」で住民に開放されている地域交流スペースの利用が増えている。地元サークルや小学校の部活動、認知症カフェなど地域の新たな交流拠点になっており、運営する洛和会ヘルスケアシステムは「さまざまな世代の人が顔を合わせて交わる憩いの場所にしたい」としている。

世代超え交流の場に

サークル、認知症カフェ…「気軽に立ち寄って」

洛和ヴィラ天王山は昨年9月、町内初の地域密着型介護老人福祉施設としてオープン。地域交流スペースは入所者のほか施設外の町民も利用できる。町民の予約状況は当初、月1〜2日だったが、利用団体が徐々に増加。現在は月10日ほどの予約があり、オカリナサークルの練習場や町内イベントの展示スペース、大山崎小のクラブ活動の場などに使われている。

また、1月下旬には町社会福祉協議会が男性向けの認知症カフェ「昭和浪漫かふえ」を初めて開催した。映画「無法松の一生」も上映され、町民がコーヒーを飲みながら談笑した。認知症カフェに参加した重村卓さん(82)は「同町田明寺」は「『男の集まり』と聞いて来てみた。映画も古い作品でなつかしい」と笑顔を見せた。

洛和ヴィラ天王山の松村恵子施設長は「今後も用途は限定しないで一般に活用を広げたい。誰でも気軽に立ち寄ってほしい」と話した。

(藤井契人)